

ストロンチウム処理水タンクから 多核種除去設備等処理水タンクへの再利用計画

2020年1月30日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

■ 再利用計画について

- 今後、137万m³のタンク容量確保（2020年12月末）に向け、水抜きが完了したSr処理水タンクをALPS処理水タンクへ再利用し、2020年3月頃からALPS処理水を受け入れ始める計画。ALPS処理水を受け入れにあたり、2018年10月に発生した硫化水素対策として、タンク底部の残水およびスラッジの回収、底部付近の清掃を実施。

（再利用タンク 93基 約9.7万m³）

- なお、タンクの再利用（Sr処理水用タンクからALPS処理水用タンクへの用途変更）については、2015年度にSr処理水タンクに残水（スラッジ含む）※1が残った状態でALPS処理水を受け入れる方法で実施。

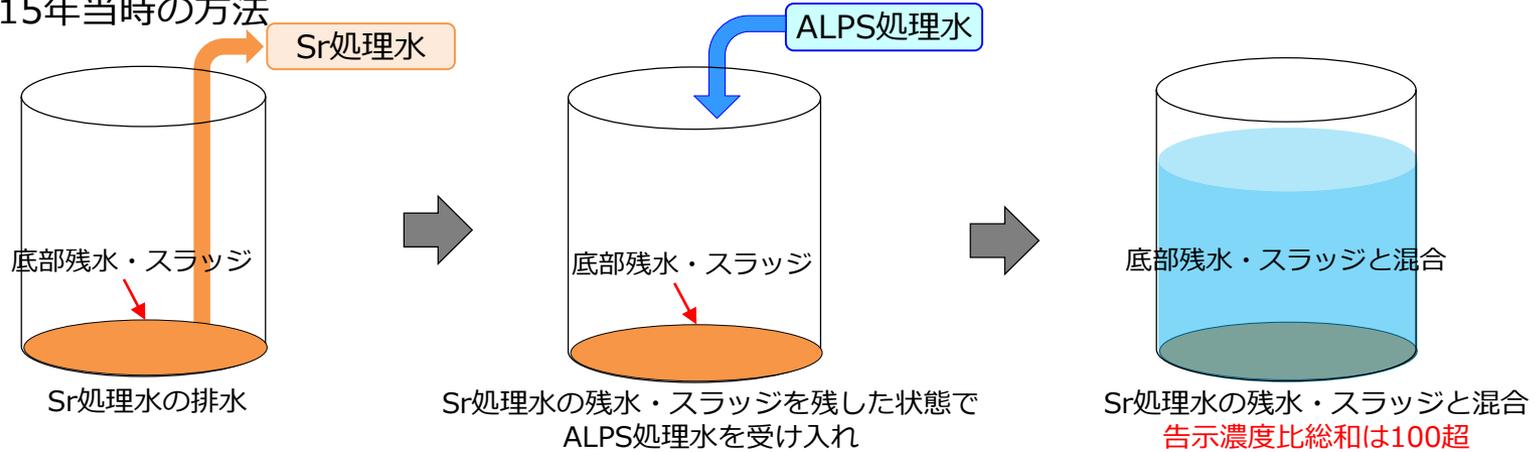
（※1 タンク容量が逼迫し、タンク底部の残水処理を行わずに受け入れを実施したためタンク水の告示濃度比総和は100を超えている。）

2020年12月末時点のSr処理水タンクの再利用計画

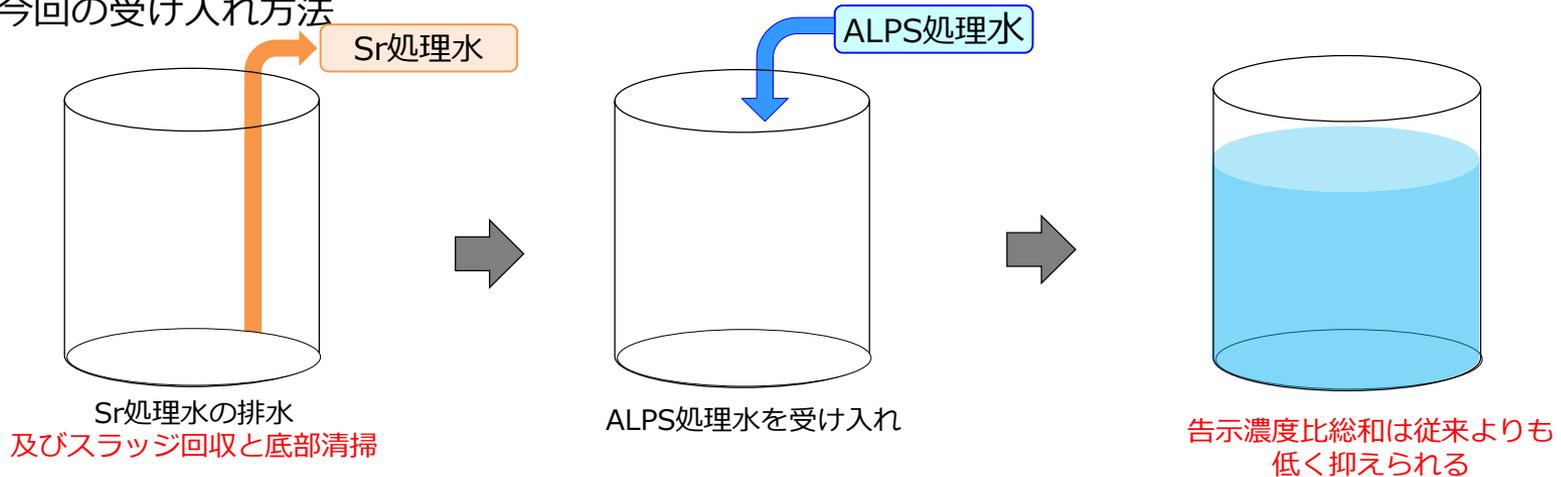
| 現状の 貯留水 | 用途・基数 | | 2020年末 貯留水 | 2020年末 貯蔵容量 |
|------------|--------|-----|---------------|---------------------|
| | 用途 | 基数 | | |
| S r 処理水 | 再利用タンク | 93基 | ALPS 処理水 | 約9.7万m ³ |
| | 運用タンク | 24基 | S r 処理水 | 約2.5万m ³ |

4-2. Sr処理水タンクの再利用方法について

■ 2015年当時の方法



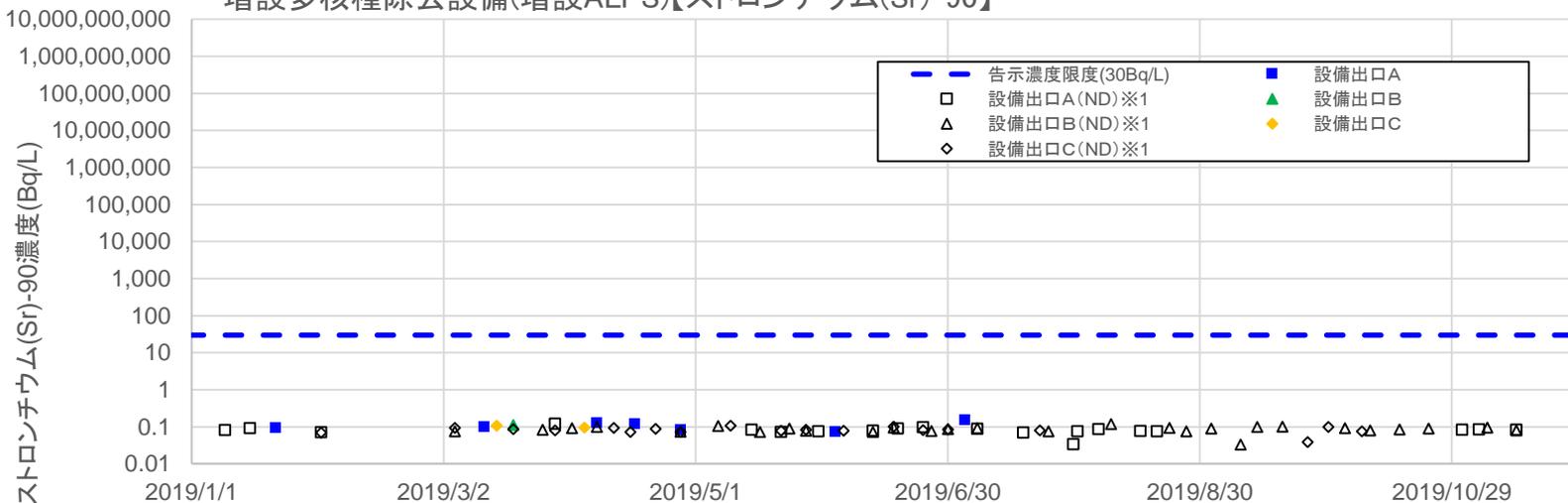
■ 今回の受け入れ方法



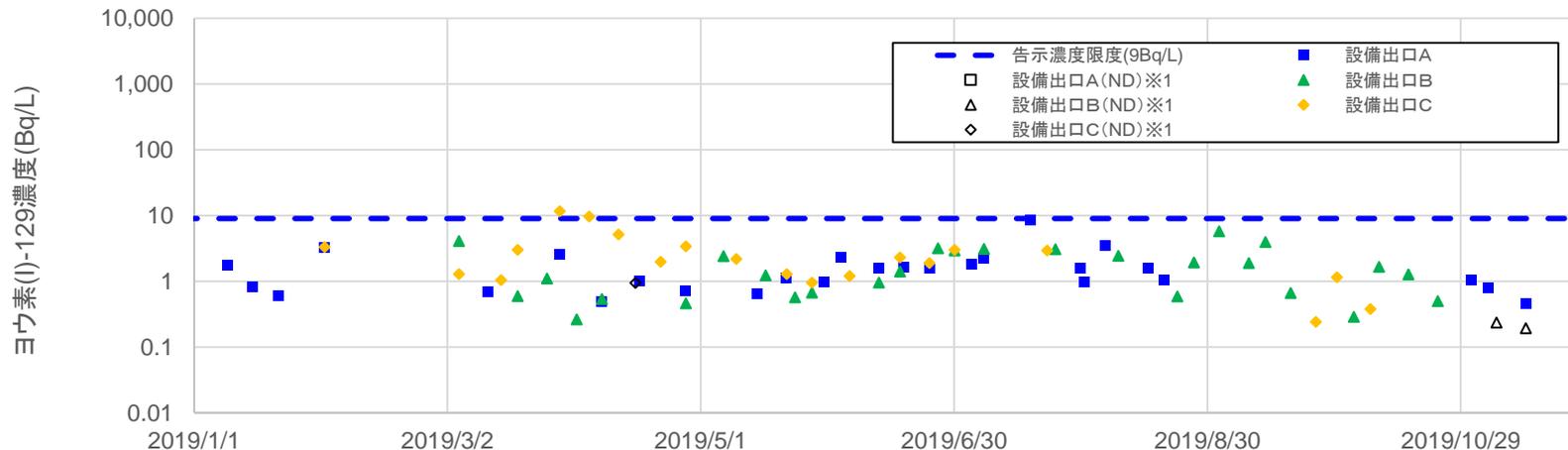
- タンク底部のスラッジ回収・清掃を実施した上でALPS処理水を受け入れるため、従来の再利用よりも告示濃度比の総和は小さくなるものの、タンク内に残留する放射性物質の影響によりALPS出口濃度より高くなることが想定されるため、受け入れ後に告示濃度比への影響を確認していく。
- なお、ALPS処理水を環境へ放出する場合には、実測により告示濃度比総和1を超えることが確認されたものに対して二次処理を実施する方針

【参考】ALPS出口の放射能濃度について

ALPSについては、出口の放射能濃度について、告示濃度比総和 1 未満を可能な限り満足するように運用中
 増設多核種除去設備(増設ALPS)【ストロンチウム(Sr)-90】



増設多核種除去設備(増設ALPS)【ヨウ素(I)-129】



※ 1 NDは検出限界値未満を示す

※ 2 本データは当社HP「福島第一原子力発電所における日々の放射性物質の分析結果」に掲載のデータ

※ 3 グラフの縦軸は対数目盛で示しており、1目盛毎に10倍となる